

カンボジアに咲いた“幻の映画”  
それは夢と秘密にあふれていた

# シアター・パンペン

ソト・クォーリーカー初監督作品



大弾圧の時代——  
眩しく輝いていた母の恋  
知られざる家族の真実!  
過酷な運命のなか半世紀を超えて  
命を賭けて守り抜いた一本の映画とは!?

●カンボジア映画界初の女性監督が描く  
壮大なヒューマンドラマ!

第27回東京国際映画祭  
国際交流基金アジアセンター特別賞

第3回(米)カンボジアタウン映画祭 最優秀作品賞 特別功労賞◎第17回(伊)ウディネ・ファースト映画祭ブラックドラゴン賞  
第5回カンボジア国際映画祭 タレント・アワード◎第1回ASEAN国際映画祭&アウォーズ 助演男優賞

THE LAST REEL

● A HUNUMAN FILMS PRODUCTION

STARRING MA RYNET DY SAVETH ROUS MONY SOK SOTHUN HUN SOPHY DIRECTOR OF PHOTOGRAPHY BONNIE ELLIOTT EDITOR KATIE FLAXMAN COMPOSER CHRISTOPHER ELVES SOUND DESIGNER BROOKE TREZISE  
EXECUTIVE PRODUCERS LLOYD LEVIN TAN SOTHO NICK RAY CHRIS WHEELDON ORIGINAL SCREENPLAY IAN MASTERS PRODUCERS SOTHO KULIKAR IAN MASTERS MURRAY POPE DIRECTOR SOTHO KULIKAR  
© 2014 HANUMAN CO. LTD

文部科学省選定(青年・成人向け)

後援: 日本カンボジア王国大使館  
カンボジア市民フォーラム  
国際交流基金アジアセンター

ASIA  
CENTER

マー・リネット ディ・サヴェット  
ルオ・モニー ソク・ソトゥン トゥン・ソービー

監督/プロデューサー:ソト・クォーリーカー  
脚本/プロデューサー:イアン・マスターズ  
プロデューサー:マレー・ポープ

エグゼクティブ・プロデューサー:ロイド・レヴィン、タン・ソト  
ニック・レイ、クリス・ホイエルソン

作曲:クリストファー・エルヴェス 音響デザイナー:ブローック・トレザイス  
編集:ケイティ・フラクスマン 撮影監督:ボニー・エリオット  
製作:● Hanuman Films Co., LTD

日本語字幕:川喜多綾子 ムービング・タイトル:南宮恒平  
宣伝デザイン:プランニングOM/オフィス63  
宣伝パブリシティ:スリーピン  
2014年/タメール語/カラー/105分  
配給:パンドラ

幻想的な映画！私がカンボジアに行ったのは30年前、ポルポトに三百万もの人々が殺された少し後でした。この映画の母親役や映写技師はその中を生きのびた人達。ラブストーリーでありながら悲しい歴史を伝える壮大な作品。

黒柳徹子さん(女優・ユニセフ親善大使)

激動の時代を生きた映画人たちの  
壮大なヒューマンドラマ！

愛もあった希望もあった…一本の映画に込められた真実とは!?

カンボジアの首都プノンベン。女子大生のソボンが廃墟のような映画館で見た古い恋愛映画。何とその主演女優は母だった！美しく輝いていた母の知られざる女優時代…。40年間も母を慕い続けている映画館主。映画の最終シーンが失われていることを知ったソボンは、映画を完成させようと決心する。今は病床に伏せる母の為に。だが、その時から、軍人の父、かつて母と愛し合った映画監督など、世界を揺るがせたクメール・ルージュの時代を懸命に生きた人々の、半世紀近くにも及ぶ数奇な運命が明らかになってゆく…。

アジア期待の新星！カンボジア映画史上初の女性監督！

監督はカンボジア映画史上初の女性監督・ソ・クォーリーカー。アンジェリーナ・ジョリー主演『トゥームレイダー』(01)のラインプロデューサーを務めるなど、ハリウッドで活躍。緻密で胸を打つストーリー展開で見る者を圧倒。第27回東京国際映画祭国際交流基金アジアセンター特別賞を始め、数々の賞を受賞。国際交流基金と東京国際映画祭共同プロジェクトによる、オムニバス映画「アジア三面鏡」で、行定勲監督など三人の監督の一人に選ばれ、将来が期待されている。

カンボジアの新鋭スターと大御所女優！

主人公のソボンを演じるのはカンボジア期待の新鋭女優、マー・リネット。初々しい魅力で多感な年頃の女子大生と、その母親の少女時代という二役に挑み、鮮烈な主演デビューを飾った。母親役はカンボジア映画界の大御所ディ・サヴェット。クメール・ルージュ時代を生き延びたカンボジア唯一の女優である。この二人の脇を固める演技陣の名演技も相まって、緻密に練られた感動の人間ドラマは見る者の心を掴んで離さない。



オールロケーションですべてが本物！

多くの映画人を見守ってきた映画館シアター・プノンベン。かつて国立劇場として利用されてきた実際の映画館だ。往時は、「アジアのバリ」と呼ばれたプノンベン…ネオンに揺れるエネルギー溢る街、深い緑に囲まれ静寂の中に佇む蓮の池…。まさに現代と歴史が渾然となったカンボジアの“今”を、オールロケーションで見事に写しとっている。



7月2日(土)～7月29日(金)ロードショー

岩波ホール

03(3262)5252 www.iwanami-hall.com/

●地下鉄(都営三田線・新宿線・東京メトロ半蔵門線)神保町A6出口すぐ  
●JR(中央線)水道橋駅または御茶ノ水駅下車徒歩1分●神保町交差点角

特別鑑賞券¥1,500 好評発売中！  
(当日一般¥1,800、シニア・学生¥1,500のところ)

月～金	11:00	13:30	16:00	19:00
土・日・祝	11:00	13:30	16:00	18:30

(自由席・定員制・入替制・整理券制)

東南アジアの若き女性監督  
による傑作を連続公開！

6月4日(土)～7月1日(金)  
インドネシア映画『鏡は嘘をつかない』

『鏡は嘘をつかない』[シアター・プノンベン]  
2作品セット前売券 2,800円(税込)  
※岩波ホールでの発売は6/3まで